

chapter

1

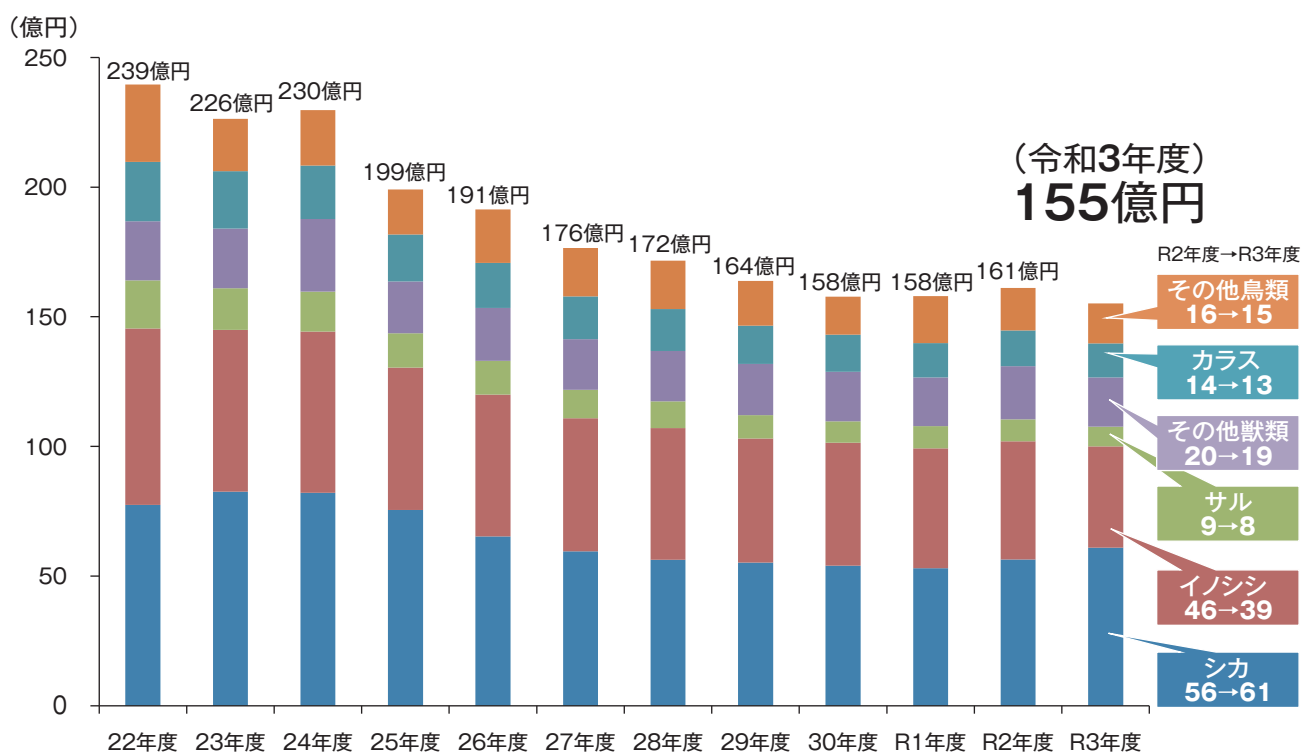


鳥獣被害の現状

1. 農作物被害は減少傾向

野生鳥獣による農作物被害金額は、平成22年度の239億円をピークに令和3年度は155億円と減少傾向にある。また、令和3年度は、被害面積は3万3千ha、被害量は46万2千トンとなっている。

(表1) 野生鳥獣による農作物被害金額の推移



データ:「全国の野生鳥獣による農作物被害状況について」(農林水産省)

農作物被害



写真1-1 イノシシによる被害



写真1-2 サルによる被害

2.シカ・イノシシ・サルの被害が全体で7割

鳥獣種類別の被害金額では、全体の7割をシカ、イノシシ、サルによる被害が占めている。

令和3年度は、イノシシは約39億円、サルは約8億円で前年度より減少しているが、シカは約61億円と前年度より約5億円増加している。

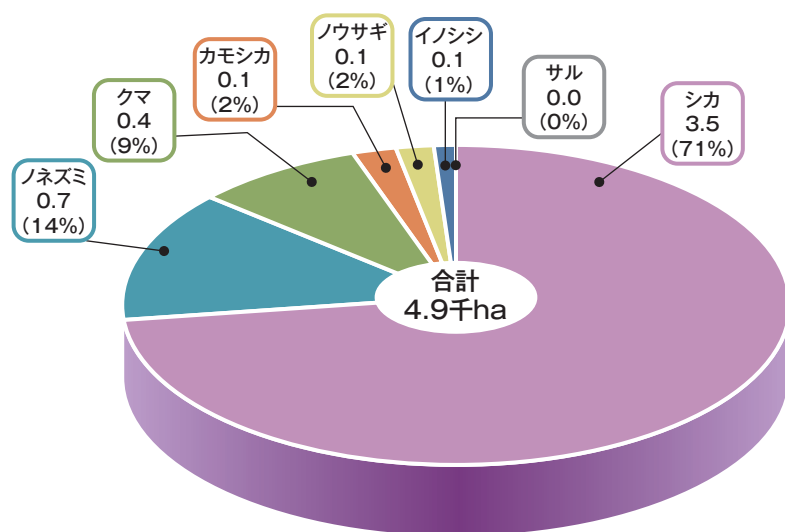
3.その他獣類、鳥類による被害

シカ、イノシシ、サルに比べて被害金額は少ないが、シカ、イノシシ、サル以外のその他獣類による被害は令和3年度は約19億円であり、そのなかでクマ(約4億円)や中型獣類のアライグマ(約4億円)、ハクビシン(約4億円)の被害が目立つ。また、カラスなどの鳥類による被害も約28億円と決して小さなものではない。

4.森林被害や水産被害

令和3年度の野生動物による森林被害面積は約4.9千haであり、その約7割をシカによる枝葉の食害や剥皮被害が占めている。また、水産分野では河川・湖沼でのカワウによるアユ等の捕食被害や、海面ではトドによる漁具の破損などが深刻化している。

(表2) 主要な野生鳥獣による森林被害面積(令和3年度)



データ:「令和3年度主要な野生鳥獣による森林被害面積」(林野庁)



写真1-3 シカによる被害(剥皮)



写真1-4 シカによる食害

5. 営農意欲低下などの原因にも

農山漁村の高齢化が進む中で、鳥獣被害は営農意欲低下の原因にもなる。そして、営農意欲の低下は耕作放棄地の増加や離農の原因にもなり得る。また、森林の下層植生消失は土壌流出や希少種の消失などにつながり、さらには交通事故や人身事故の原因となるなど、環境や生活面への影響も大きくなっている。

6. 農業の変遷と鳥獣被害

多くの農村で離農による耕作放棄地が増加している。これらは、新たな鳥獣被害の温床にもなる。担い手への集積が進んだ集落では地権者の農業への関心が低下し、同時に鳥獣被害への関心も低下する傾向にある。そのため鳥獣被害を防ぐことを今後の地域農業のあり方と併せて検討していく必要がある。

野生鳥獣による被害



写真1-5 イノシシによる水稻被害



写真1-8 シカによる被害(剥皮)

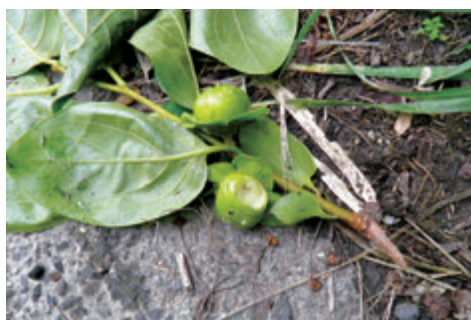


写真1-6 サルによる柿の食害



写真1-9 アライグマによるスイカの食害



写真1-7 ヒヨドリによるミカンの食害



写真1-10 ハクビシンによるスイカの食害